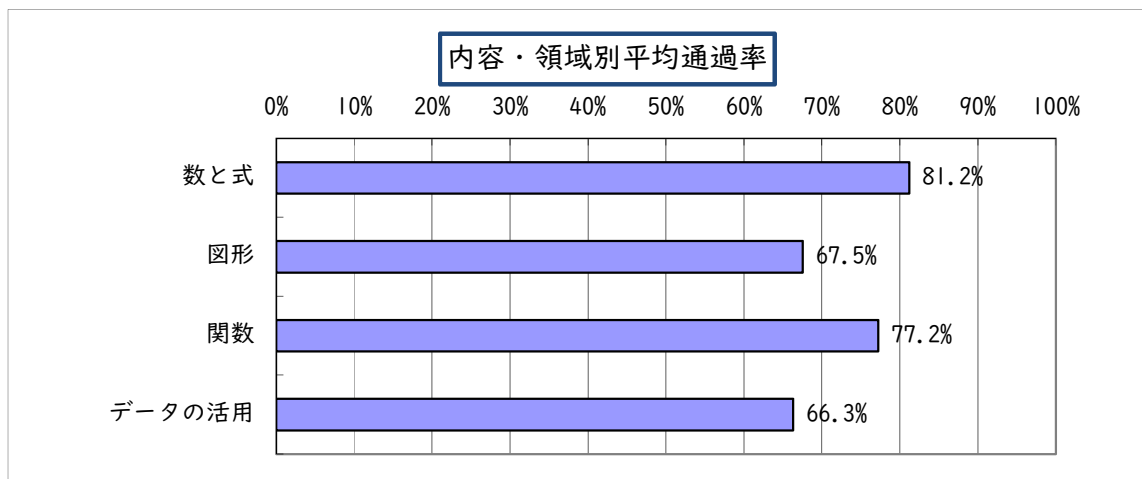


(1) 中1平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率		小5	中1	中2
	知識・技能	73.3%	80.2%	76.0%
	思考・判断・表現	76.2%	66.2%	55.5%
	全体	74.6%	74.3%	68.8%



- 「知識・技能」の平均通過率は80.2%です。「 $(-7) - (+3)$ 」を計算したときの結果で、正しいものを4択から選択する問題」の通過率は72.6%でした。令和4年度の「 $(-8) + (+3)$ 」を計算する問題は93.2%であり、大きく通過率が下がっています。また、角の二等分線の作図が図形の対称性を基に行われていることを理解しているかを問う問題が68.2%であり、課題となっています。
- 「思考・判断・表現」の平均通過率は66.2%です。正方形の意味や性質を理解し、対称移動した図形について考察する問題が63.4%、関数の関係において、数学的な結果を事象に即して解釈する問題が67.5%、問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断する問題が37.0%であり、課題となっています。
- 内容・領域別の平均通過率では、「データの活用」領域が66.3%でもっとも低くなっています。授業においては、自分たちが出した結論や問題解決の過程が妥当なものであるかどうかを別の観点や立場から検討したり、出された結論が信頼できるだけの根拠を伴ったものであるかどうかを検討したりする活動を取り入れる必要があります。

## (2) 各設問の分類と平均通過率

## 数学(中学校第1学年)

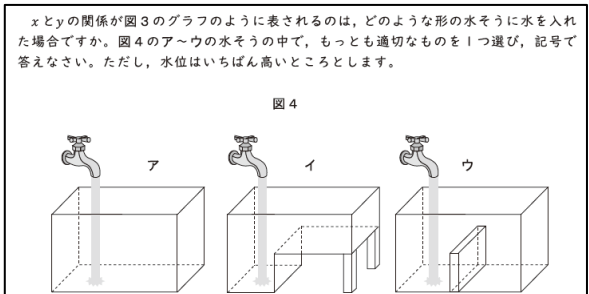
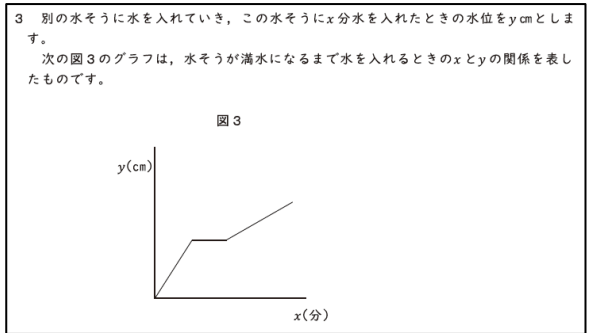
問題番号	設問			出題学年	学習指導要領の領域				評価の観点		県平均		校内平均		出題の意図
	大問	中問	小問		数と式	図形	関数	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	通過率	無解答率	通過率	無解答率	
1	1	1		中1	○				○		72.6%	0.0%			正負の数の加法・減法の計算ができるか。
2		2		中1	○				○		79.5%	0.0%			文字に数を代入し、式の値を求めることができるか。
3	2	1		中1	○				○		71.5%	0.0%			数量の大小関係を不等式に表すことができるか。
4		2		中1	○				○		89.1%	0.0%			事象に即して解釈したことを数学的に表現できるか。
5	3	1	① ②	小4		○			○		70.2%	0.1%			台形の意味や性質について理解しているか。
6		2	③ ④	中1		○			○		68.0%	0.5%			高さが等しい三角形について、面積を比べるときに必要な条件を見つけることができるか。
7		3		中1		○			○		63.4%	0.3%			正方形の意味や性質を理解し、対称移動した図形について考えることができるか。
8	4	1		中1		○			○		68.2%	0.3%			角の二等分線の作図が図形の対称性を基に行われていることを理解しているか。
9	5	1		小6				○	○		85.0%	0.2%			平均値の意味を理解しているか。
10	6	1		小6			○		○		70.8%	0.2%			反比例の意味を理解しているか。
11	7	1		中1	○				○		89.6%	0.3%			問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるか。
12		2		中1	○				○		88.1%	0.4%			与えられた説明の筋道を読み取り、事象を数学的に表現することができるか。
13		3	② ③ ④	中1	○					○		78.0%	0.8%		
14	8	1		小6			○		○		93.4%	0.8%			比例の関係をを用いて値を求めることができるか。
15		2		小6			○		○		77.1%	0.5%			グラフに表された変化する数量の特徴を数学的に考察することができるか。
16		3		小6			○		○		67.5%	0.5%			数学的な結果を事象に即して解釈することができるか。
17	9	1		小6				○	○		92.3%	0.5%			柱状グラフからある階級の度数を読み取ることができるか。
18		2		小6				○	○		37.0%	0.5%			問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断することができるか。
19		3		小6				○	○		50.8%	0.6%			与えられた情報から必要な情報を選択し、事象に即して解釈することができるか。
計				問題数	7	4	4	4	11	8	74.3%		0.3%		
				出題割合	36.8%	21.1%	21.1%	21.1%	57.9%	42.1%					

(3) 数学<中学校第1学年>

ア 特徴ある問題から 大問⑧ 3

(小学校学習指導要領解説 算数編〔第6学年〕 C「変化と関係」イ(ア) P303)

学習指導要領解説には「比例の関係をを用いると能率よく問題を解決できる場面は日常生活に様々ある。その際、得られた結果については、現実場面でのどういう意味をもつかを考え、目的に照らしてみたときに、問題を解決することにつながるかどうかを評価する必要がある。正確さが問題となる場合には、厳密に考えれば比例の関係ではないが、比例の関係にあるとみることによって結果が導かれたという点を振り返ることも大切である。」とあります。そこで本問題では、水を入れ始めてからの時間と水位の関係が単に比例の関係となる場面だけを扱う問題ではなく、様々な形状の水そうから、関数関係にあることを見だし、その関係について考えたり、グラフの形から水そうの形状を推測したりする場面を取り上げ、出題しています。



その際、実際に授業でも取り扱うことができるように、子供たちが対話を通してグラフの形から水そうの形状を推測できるような場面を取り扱っています。

本問題における平均通過率は **67.5%** となっています。原因として、関数関係を見いだす際に日常生活の題材を取り扱う授業や、関数関係を自ら見いだしたり、その理由について式やグラフ、図形を根拠に説明し合ったりする授業が十分になされていない可能性があります。そこで本調査問題を活用した、次のような視点での授業改善が考えられます。

イ 授業改善のポイント

**【学習課題】(問題づくり)**  
オリジナルの水そうをつくったとき、それぞれのグラフはどのように表されるだろうか。

S1: 水そうをつくるってどういうことかな。問題の見本のような水そうってことかな。

S2: 難しいね。とりあえず色々な水そうを正面から見た図でかいてみようかな。グラフはどのように表されるかな。

S3: それぞれのグラフはこれであってるかな。

T: よくできましたね。それでは今度は逆に、グラフをかいてみて、そこから水そうの形を考えてみることはできそうですか。

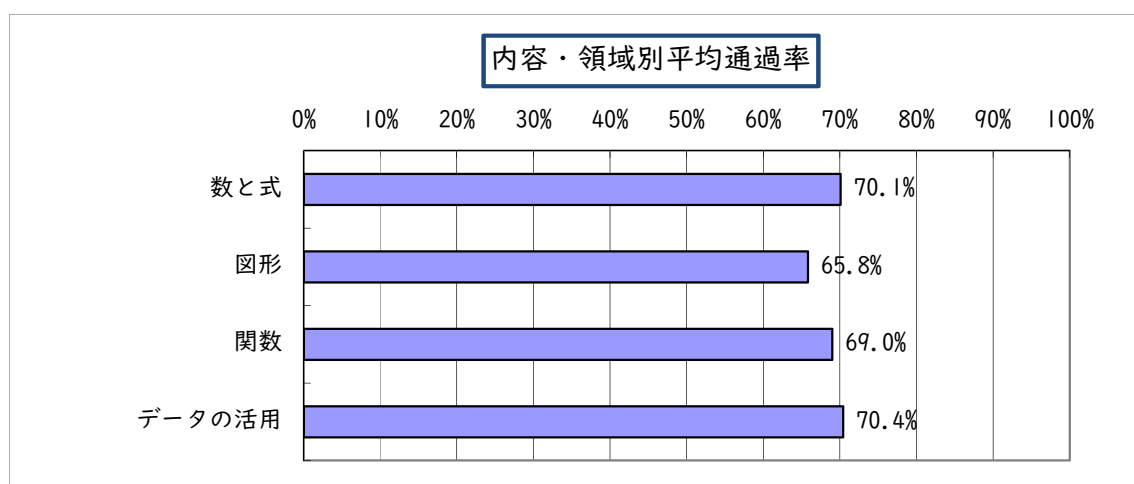
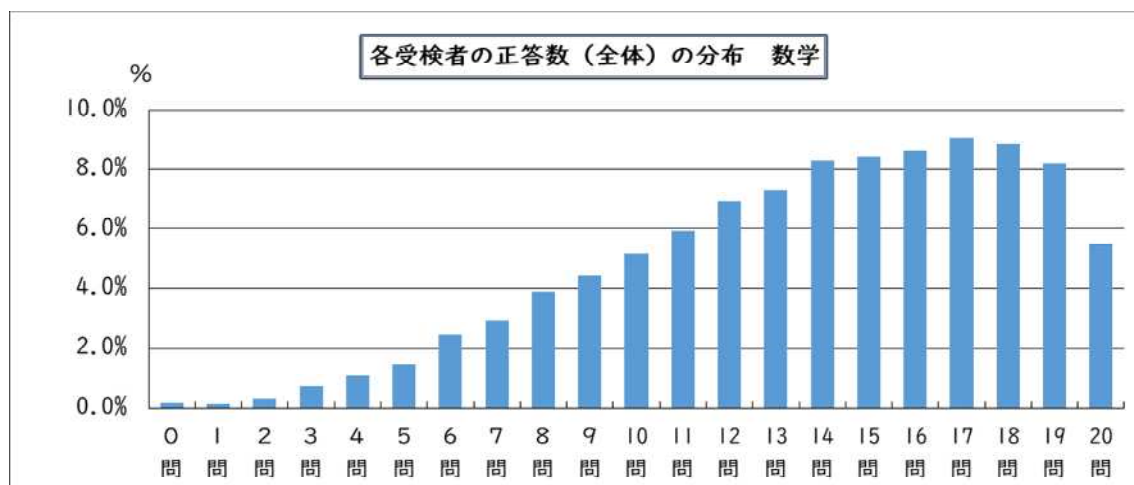
水そうに水がたまるという日常の事象において、伴って変わる二つの数量である時間と水位について、一方の値を決めたとき他方の値がただ一つに決まるため、関数関係があるということを確認します。その際、「ここからここまでは一定の割合で水位が上昇するから比例であると考えられるね」といったように、学習してきたことを使って説明し伝え合うあう子供の姿を想定しておきましょう。

グラフの傾きや変域など、厳密な正答のみを求め過ぎず、そういった説明ができていた生徒は大いに認め、形成的に評価することがポイントです。  
問題づくりの活動において、子供自身が興味・関心をもっていきいきと問題づくりに取り組み、説明することを通して、学んだことを生かそうとする態度を育成することが重要となります。  
単元を通した振り返りの場面では、内容だけにとどまらず、学び方や、今後調べてみたいことについても振り返るようにしましょう。

中学校第2学年【数学】

(1) 中2平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率		小5	中1	中2
	知識・技能	73.3%	80.2%	76.0%
	思考・判断・表現	76.2%	66.2%	55.5%
	全体	74.6%	74.3%	68.8%



- 「知識・技能」の平均通過率は76.0%です。角の二等分線の作図方法を理解しているかを問う問題が50.5%、与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る問題が53.3%であり、課題となっています。
- 「思考・判断・表現」の平均通過率は55.5%です。数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明する問題が51.7%、根拠として用いられている三角形の合同条件を見いだす問題が47.6%、グラフが直線で表されていることの意味を解釈する問題が59.3%、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題51.1%であり、課題となっています。
- 内容・領域別の平均通過率では、「図形」領域が65.8%でもっとも低くなっています。授業においては、証明に用いた前提や証明の根拠、結論を整理するなどして証明を振り返り、新たな性質を見いだす活動を取り入れる必要があります。

(2) 各設問の分類と平均通過率

数学(中学校第2学年)

	設問			出題学年	学習指導要領の領域				評価の観点		県平均		校内平均		出題の意図
	大問	中問	小問		数と式	図形	関数	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	通過率	無解答率	通過率	無解答率	
1	1	1		中2	○				○		85.9%	0.1%			整式の加法と減法の計算ができるか。
2		2		中2	○				○		78.7%	0.1%			文字に数を代入し、式の値を求めることができるか。
3		3		中2	○				○		72.0%	6.0%			加減法や代入法を利用して、連立方程式を解くことができるか。
4		4		中2	○				○		84.2%	3.6%			数量の関係を捉え、2元1次方程式を立式できるか。
5	2	1		中1				○	○		94.8%	0.2%			表から比例の特徴を捉え、 $x$ の値に対応する $y$ の値を求めることができるか。
6		2		中1				○	○		77.8%	0.3%			反比例のグラフの特徴を理解しているか。
7	3	1		中2		○			○		81.5%	0.2%			多角形の内角の和の性質を理解しているか。
8		2		中1		○			○		50.5%	0.3%			角の二等分線の作図方法を理解しているか。
9	4	1		中2	○				○		77.9%	2.1%			問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるか。
10		2		中2	○				○		40.6%	11.7%			目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるか。
11		3		中2	○				○		51.7%	1.5%			数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができるか。
12	5	1		中2		○			○		74.4%	0.4%			三角形の合同条件を理解しているか。
13		(1)		中2		○			○		74.9%	0.5%			合同条件の意味を理解しているか。
14		(2)		中2		○			○		47.6%	0.8%			根拠として用いられている三角形の合同条件を見いだすことができるか。
15	6	1		中1				○	○		53.3%	6.2%			与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるか。
16		2		中1				○	○		59.3%	1.4%			グラフが直線で表されていることの意味を解釈することができるか。
17		3		中1				○	○		60.0%	1.2%			与えられた事象を求めるための方法を判断することができるか。
18	7	1		中1				○	○		84.3%	3.1%			ヒストグラムから度数を正しく求めることができるか。
19		2		中1				○	○		75.8%	1.3%			相対度数の必要性和意味を理解しているか。
20		3		中1				○	○		51.1%	1.2%			データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるか。
計				問題数	7	5	5	3	13	7					
				出題割合	35.0%	25.0%	25.0%	15.0%	65.0%	35.0%					
											68.8%	2.1%			

(3) 数学<中学校第2学年>

ア 特徴ある問題から 大問7 3

(中学校学習指導要領解説 数学編〔第1学年〕D「データの活用」イ(ア)と関連 P88)

学習指導要領解説には「目的に応じてデータを収集し、ヒストグラムや相対度数などを用いて、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができるようにする。」とあります。そこで本問題では、単にデータを整理してヒストグラムに表わしたり、ヒストグラムから代表値を読み取ったりするだけの問題ではなく、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明している内容を桜子さんと監督との会話を基に選択する問題を出題しています。

その際、実際に授業でも取り扱うことができるよう、データに基づいて自分の考えを説明する過程において、様々な数学的な根拠を用いて説明する場面を取り扱っています。

本問題における平均通過率は51.1%となっています。原因として、自分の考えを数学的な根拠を用いて説明したり、その説明に対して、データの収集の仕方は適切か、どの代表値が根拠としてふさわしいか、分布の形に着目しているか、傾向を読み取りやすいグラフで表せているか、グラフの目盛りなどを加工して過度に誇張していないか、分析した結果から得られる結論が妥当かなどについて検討するなど、批判的に考察したりする授業が十分になされていない可能性があります。そこで本調査問題を活用した、次のような視点での授業改善が考えられます。

3 桜子さんは、3人の選手の度数分布表をもとにヒストグラムを作成しました。

第4クォーターの得点のヒストグラム(各選手)

桜子さんと監督は、調べたことをもとに、3人の選手について話し合っています。

桜子さん「どの選手も平均値で比較すると、約6点でした。春にある大きな大会では、どの選手を起用するか迷いますね。」

監督「データを準備してくれてありがとう。このデータをもとに分析した桜子さんの考えを教えてほしいな。」

桜子さん「C選手は、14点以上得点した試合が4試合あり、割合が25%あります。期待できそうですね。」

監督「確かに、次の試合で得点を多くとる可能性が他の選手よりあるかもしれない。」

桜子さん「ただ、C選手は16試合しか出場していません。B選手は20試合の全てに出場しています。監督はなぜB選手を他の選手よりも出場させているのですか。」

監督「B選手は、だから、B選手を全ての試合に起用しているんだよ。」

桜子さん「なるほど。」

監督「今回の分析は、次の大会に向けてとても参考になった。今度は、他の代表値を参考にしたり、多くの選手を比較できたりすると、より参考になりそうだ。チームのために、これからも分析をよろしく頼むよ。」

第4クォーターの得点のヒストグラム(各選手)から、監督はB選手を他の選手よりも多く出場させました。に当てはまる監督の主張として、もっとも妥当なものを下のア～ウの中から1つ選び、記号で答えなさい。

ア 最頻値を含む階級が4点以上6点未満の階級で、最頻値が他の選手より高い。  
 イ 4点未満の各階級の度数の合計が4試合で、他の選手よりも少ない。  
 ウ 最大値を含む階級の中央の値が、他の選手よりも大きい。

イ 授業改善のポイント

【学習課題】  
 マネージャーであるあなたは、A～Cのどの選手の起用を監督に提案しますか。

S1: どの選手も平均値は同じだから、他の値に着目して考えてみよう。どの選手の起用を提案しようかな。

S2: やっぱり最頻値が重要じゃないかな。最頻値を含む階級の階級値が最も大きい選手は誰だろう。

S3: 確実に点数を取ってくれる選手がよいのではないかな。4点未満の度数が多い選手は活躍が期待できないのではないかな。

S4: 私はそれぞれの選手が最近どのくらい活躍しているかが気になるな。時系列に並んだ基となるデータはないのかな。

T: タブレット端末からは基となるデータにもアクセスできますよ。データは、必要に応じて整理して分析しても構わないですよ。

「学習者主体の授業」となるように、自分の考えをまとめたり、対話により互いの考えを批判的に考察したりする際には、タブレット端末やワークシートといった道具や、個、ペア、グループでといった学習形態などを自由に自己選択、自己決定できるように工夫することが重要です。

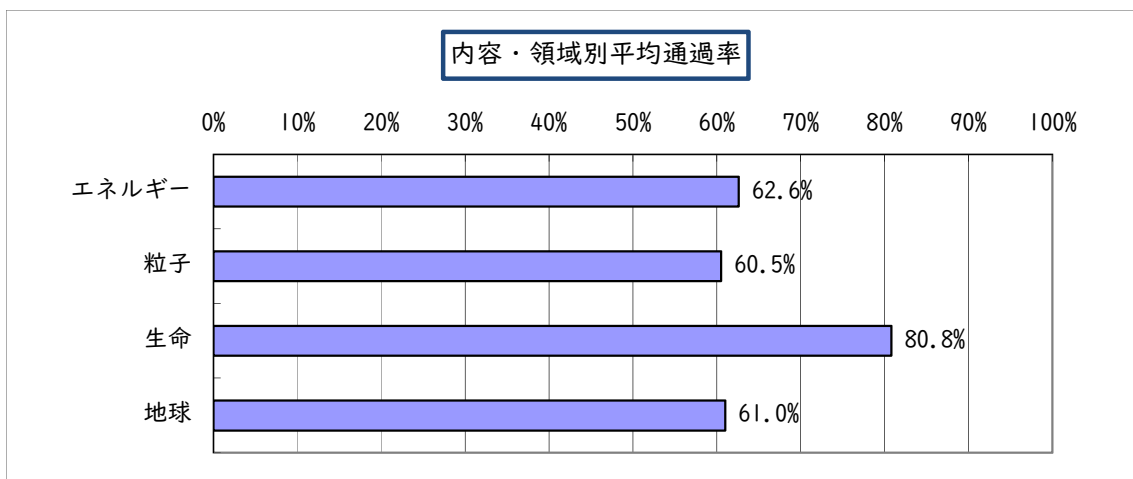
また、振り返りの場面では、学習内容だけにとどまらず、自分が自己選択、自己決定した学び方は自分にとって効果があったかを振り返るなど、自己調整力を高めることも大切です。

育成したい資質・能力を育むため、どのようなデータを準備しておけばよいかを十分に検討し、いつでも提示できるように万全に準備しておくことで、子供は主体的に学習に取り組むことができます。授業の中では子供に学習を委ねるとともに、どの段階にいるのかを学びの事実から見取ることが重要です。

中学校第1学年【理科】

(1) 中1平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率		小5	中1	中2
	知識・技能	77.6%	69.5%	77.7%
	思考・判断・表現	72.8%	60.5%	54.1%
	全体	75.4%	66.3%	66.9%



- 「知識・技能」の平均通過率は69.5%であり、やや課題が見られます。大問8(3)のれき、砂、泥が粒の大きさの違いによって層に分かれることを理解しているかを問う設問は40.7%と低くなっており、中学1年生で学習する際は小学校での学習を想起し、問題意識をもって地層が形成されるモデル実験などを行い、実験の結果を分析・解釈することが大切です。
- 「思考・判断・表現」の平均通過率は60.5%です。大問3(3)の質量パーセント濃度の求め方を問う設問は53.3%となっています。昨年度の類題より22.2ポイント上回っており、改善が見られつつあります。
- 内容・領域別の平均通過率は粒子領域が60.5%と低くなっています。いずれも実験の結果から分析・解釈する問題で通過率が低くなっており、授業で実験等を行う際には、問題意識をもち、見通しをもって実験を行い、実験の結果を分析・解釈することが大切です。

(2) 各設問の分類と平均通過率

理科(中学校第1学年)

設問	出題学年			内容領域別				評価の観点		県平均		校内平均		出題の意図	
	大問	中間	小問	エネルギー	粒子	生命	地球	知識・技能	思考・判断・表現	通過率	無解答率	通過率	無解答率		
1		1		中1		○		○		80.2%	0.0%			スケッチの正しい方法を理解しているか。	
2	1	2		中1		○		○		62.0%	0.3%			被子植物と裸子植物のつくりで共通する点を理解しているか。	
3		3		中1		○		○		90.7%	1.5%			裸子植物の花のつくりを理解しているか。	
4		1		中1		○		○		96.4%	0.4%			セキツイ動物と無セキツイ動物の違いを理解しているか。	
5	2	2		中1		○		○		92.1%	0.1%			ほ乳類の子のうまれ方を理解し、分類する観点を考えることができるか。	
6		3		中1		○		○		63.6%	0.1%			節足動物のからだのつくりを理解し、その特徴から分類することができるか。	
7		1		中1		○		○		39.3%	0.1%			溶解度の語句の意味を理解しているか。	
8		2		中1		○		○		59.3%	0.7%			溶解度曲線から、再結晶する物質の質量を求めることができるか。	
9		3		中1		○		○		53.3%	2.4%			質量パーセント濃度の求め方を理解しているか。	
10		4		中1		○		○		86.6%	0.3%			水にしている状態の物質をモデルで理解できているか。	
11		1		中1		○		○		75.3%	0.2%			水置換法で集めることのできる気体の性質を理解しているか。	
12	4	2		中1		○		○		51.8%	0.4%			水素を発生させる方法について理解しているか。	
13		3		中1		○		○		55.7%	0.4%			気体の水へのとけ方やとけたときの性質から、実験結果を判断することができるか。	
14		1		中1		○		○		76.1%	0.3%			沸騰石の役割を理解しているか。	
15	5	2		中1		○		○		46.9%	0.4%			実験結果から、混合物の蒸留に関する性質を見いだすことができるか。	
16		1		中1	○			○		80.9%	0.3%			凸レンズを通る光の進み方を理解し、実像を求める作図の方法を、正しく判断できるか。	
17	6	2		中1	○			○		67.6%	0.3%			凸レンズによる実像の性質について理解し、実像の向きを判断できるか。	
18		3		中1	○			○		39.4%	0.4%			実像ができる範囲を、正しく理解しているか。	
19		1		中1	○			○		95.7%	0.4%			音源の振動により、音が鳴ることを理解しているか。	
20	7	2		中1	○			○		46.1%	0.4%			弦の太さや長さや音の高さを関連付けて実験結果を判断することができるか。	
21		3		中1	○			○		46.0%	0.6%			音の大きさ、高さが変わったとき、オシロスコープの波形がどうなるか判断することができるか。	
22		1		小5			○	○		64.4%	4.3%			流れる水の働きによってできる粒子の特徴を理解しているか。	
23	8	2		小6			○	○		77.9%	1.1%			地層から、堆積当時の火山活動の回数を判断することができるか。	
24		3		小6			○	○		40.7%	0.6%			水のはたらきにより、粒の大きさごとに層ができることを理解しているか。	
計				問題数	6	9	6	3	15	9					
				出題割合	25.0%	37.5%	25.0%	12.5%	62.5%	37.5%					
										66.3%	0.7%				



(3) 理科<中学校第1学年>

ア 特徴ある問題から 大問 5 (2)

(中学校学習指導要領解説 理科編 ① 物質の融点と沸点について P39)


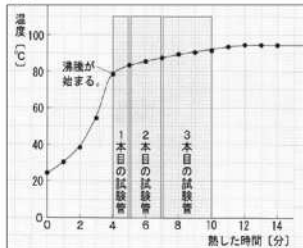

特徴ある問題として、全国学力・学習状況調査の問題作成の枠組みを踏まえた問題を出題しています。本問題は、その枠組みの視点「分析・解釈」を基に作成しています。「分析・解釈」は、事象の観察から抽出した要因や実験の結果などの情報を分析して解釈し、判断したり推論したりすることを求めています。

本問題は、混合物を加熱する実験を行い、その結果から、沸点の違いを利用して混合物から物質を分離できることを見いだすことができるかを問う問題です。

本問題における通過率は 46.9% となっています。原因として、図2のグラフから沸点が一定ではないことや表とグラフからエタノールを多く含んだ気体が先に出てくることを見いだせなかったことが考えられます。そこで、次のような視点での授業改善が求められます。

5 図1の装置を準備して、エタノール3cm<sup>3</sup>と水17cm<sup>3</sup>の混合物を弱火で加熱しました。このとき、出てきた気体を冷やして2cm<sup>3</sup>ずつ3本の試験管に液体を集めました。図2は、実験における熱した時間と温度の関係を表したグラフです。

また、図3のように試験管の液体にひたしたる紙をつけて燃えるか調べました。表は、その結果をまとめたものです。次の各問いに答えなさい。

試験管	火をつけたとき
1本目	燃えた
2本目	燃えた
3本目	燃えなかった

(2) 水とエタノールの混合物を加熱したこの実験を行うことによって、わかったことがいくつかありました。次のア～エの中から、実験からわかることとして適切と考えられるものを2つ選び、記号で答えなさい。

- ア 混合物を加熱したとき、沸点は一定にならないことがわかった。
- イ 水よりもエタノールの方が、沸点が高いことがわかった。
- ウ 水とエタノールの混合物を加熱すると、エタノールを多くふくんだ気体が先に出てくるのがわかった。
- エ 水とエタノールを混ぜることで、水が沸騰する温度を100℃以上にするができることがわかった。

正答 ア, ウ

通過率 46.9%

イ 授業改善のポイント

<事象提示>

(水とエタノールの混合物を提示)  
T: どのようにしたら、水とエタノールを分けることができますか。

S1: 前の時間で学習した沸点の違いを利用したら、分けることができるのではないかな。

T: 混合物を加熱すると、沸点はどうなりそうですか。

【学習課題】液体どうしが混じり合った混合物を分けるには、どのようにすればよいだろうか。

S2: 水とエタノールの混合物だから、沸点が2つあるのではないかな。

S3: 混合物の沸点は決まっているのかな。

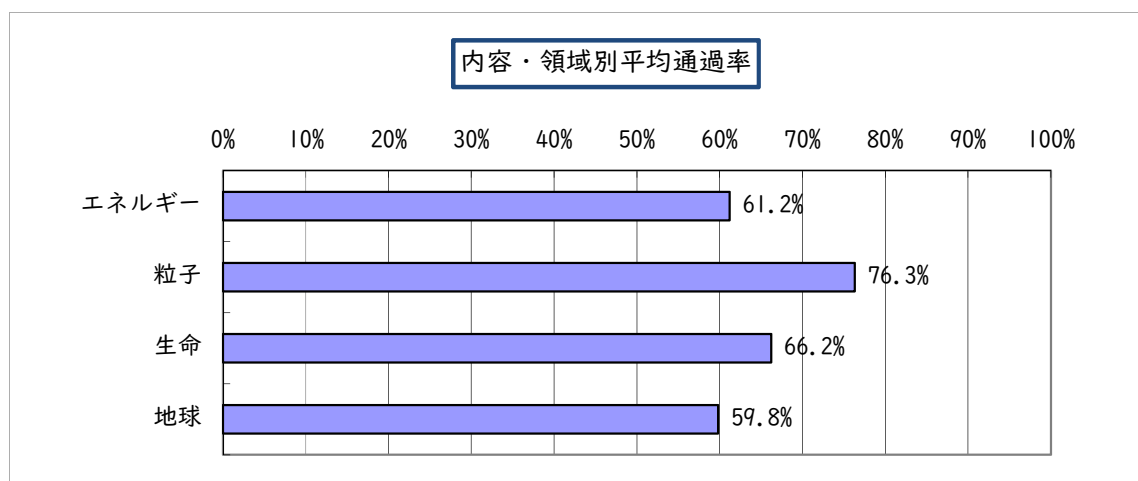
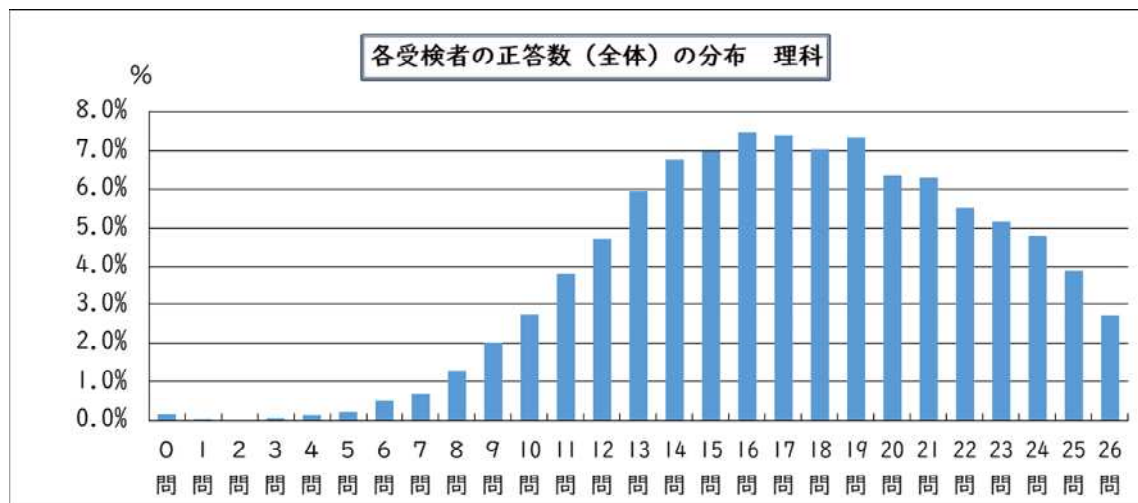
日常生活と関連付けた実験として、みりんや赤ワインなどの混合物からエタノールを分離する実験を行ったり、沸点の違いを利用して石油から様々な物質を取り出していることなどを取り上げたりすることなどが考えられます。

問題意識をもつ場面で、混合物の沸点はどうかということに焦点化し、それぞれの問題意識をもとに、見通しをもって実験をすることで、結果のグラフや表から、分かることを見いだしやすくなります。

中学校第2学年【理科】

(1) 中2平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率				
	小5	中1	中2	
	知識・技能	77.6%	69.5%	77.7%
	思考・判断・表現	72.8%	60.5%	54.1%
全体	75.4%	66.3%	66.9%	



- 「知識・技能」の平均通過率は77.7%で概ね良好ですが、大問2(3)の腎臓のはたらきを理解しているかを問う設問の通過率は46.8%と低くなっています。腎臓だけではなく、動物の体における必要な物質の吸収、血液によるいろいろな物質の運搬、不要な物質の排出といった物質の移動を、細胞や器官の働きと関連付けて総合的に理解できるようにすることが大切です。
- 「思考・判断・表現」の平均通過率は54.1%で課題が見られます。大問7(2)の実験結果と飽和水蒸気量の表から部屋の空気に含まれる水蒸気量を求める設問の通過率は24.5%でした。ここでは露点と飽和水蒸気量、湿度の関係を確認し、水蒸気量の変化をグラフで考えるなどして、気温が下がると飽和水蒸気量が小さくなるため湿度が上がるといふ規則性を見いだせるようにすることが大切です。
- 内容・領域別の平均通過率は、地球領域が59.8%と低くなっています。霧や雲の発生についての観察、実験を行い、そのでき方を気圧、気温及び湿度の変化と関連付けて考えるように働き掛けることが大切です。

## (2) 各設問の分類と平均通過率

理科(中学校第2学年)

設問	出題学年			内容領域別				評価の観点		県平均		校内平均		出題の意図
	大問	中問	小問	エネルギー	粒子	生命	地球	知識・技能	思考・判断・表現	通過率	無解答率	通過率	無解答率	
1	1	1	中2			○		○		83.9%	0.0%			エタノールを湯煎する理由を理解しているか。
2		2	中2			○		○		72.2%	0.1%			実験結果から、方法の改善点を考えることができるか。
3		3	中2			○		○		36.1%	0.1%			解決するために必要な視点に着目し、比較する箇所を判断することができるか。
4		4	中2			○		○		94.9%	0.1%			光合成が行われている部分を理解しているか。
5	2	1	中2			○		○		81.1%	0.1%			だ液にふくまれる消化酵素を理解しているか。
6		2	中2			○		○		48.4%	0.1%			養分の多くが小腸から吸収されることを理解し、養分が多く含まれる血管を判断することができるか。
7		3	中2			○		○		46.8%	0.1%			じん臓のはたらきを理解しているか。
8	3	1	中2		○			○		92.9%	0.1%			酸化銅の化学式を理解しているか。
9		2	中2		○			○		86.9%	0.1%			繰り返し加熱する意図を理解しているか。
10		3	中2		○			○		55.2%	2.0%			グラフを正しく読み取り、結び付いた酸素の質量を求めることができるか。
11		4	中2		○			○		68.4%	4.2%			銅と酸化銅の化合比を利用して、酸化銅の質量を求めることができるか。
12	4	1	中2		○			○		80.4%	0.1%			加熱実験を行う際の注意点が身に付いているか。
13		2	中2		○			○		88.2%	0.1%			二酸化炭素の性質を理解しているか。
14		3	中2		○			○		70.9%	0.1%			水分子のモデルを理解しているか。
15		4	中2		○			○		67.7%	0.2%			考察の妥当性を判断することができるか。
16	5	1	中1	○				○		67.2%	2.0%			おもりにはたらく重力の大きさを求めることができるか。
17		2	中1	○				○		43.6%	0.2%			実験結果を基にどのようなグラフになるか、判断できるか。
18		3	中1	○				○		57.6%	4.7%			フックの法則を理解しているか。
19		4	中1	○				○		76.4%	0.5%			フックの法則から、ばねの伸びを推測することができるか。
20	6	1	中1				○	○		90.2%	0.1%			火山噴出物にはどのようなものがあるか理解しているか。
21		2	中1				○	○		65.8%	0.3%			マグマのねばりけと火山の形との関係について理解しているか。
22		3	中1				○	○		55.0%	0.2%			火山岩の特徴を理解しているか。
23	7	1	中2				○	○		93.5%	0.2%			露点について理解しているか。
24		2	中2				○	○		24.5%	5.9%			実験結果と飽和水蒸気量の表から、部屋の空気に含まれる水蒸気量を求めることができるか。
25		3	中2				○	○		48.4%	0.4%			実験結果から、水蒸気量と温度の関係を比較して考えることができるか。
26		4	中2				○	○		41.5%	0.3%			水の凝結を身の回りの現象と関連付けて考えることができるか。
計		問題数	4	8	7	7	14	12						
		出題割合	16.7%	33.3%	29.2%	29.2%	53.8%	46.2%						
										66.9%	0.9%			

(3) 理科<中学校第2学年>

ア 特徴ある問題から 大問3

(中学校学習指導要領解説 特徴ある問題として、全国学力・学習状況調査の問題作成の枠組みを踏まえた問題を出題しています。本問題は、その枠組みの視点「分析・解釈」を基に作成しています。「分析・解釈」は、事象の観察から抽出した要因や実験の結果などの情報を分析して解釈し、判断したり推論したりすることを求めています。


本問題では、化学変化に関係する物質の質量を測定する実験を行い、反応する物質の質量の間には、一定の関係があることを見いだして、銅と結びついた酸素の質量を求める問題です。

(3)

理科編 ① 質量の変化の規則性について P51)

3 銅を熱したときの質量の変化を調べるために、次の実験1、2を行いました。次の各問いに答えなさい。

実験1 銅の粉末 0.40gとステンレス皿全体の質量をはかった後、図1のように銅の粉末をステンレス皿全体にうすく広げて加熱しました。よく冷やした後、全体の質量をはかって、できた酸化銅の質量を調べました。これを質量が変化しなくなるまでくり返しました。表はその結果を示しています。



加熱した回数 [回]	0	1	2	3	4	5
酸化銅の質量 [g]	0.40	0.44	0.47	0.49	0.50	0.50

表

実験2 銅の粉末の質量を変えて、実験1と同様の実験を行いました。図2はその結果をグラフに表したものです。

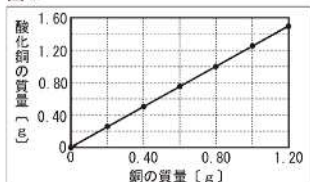


図2

(3) 図2より、銅 0.80gを加熱したとき、結びついた酸素は何gですか。

正答 0.20 g

通過率 55.2%

本問題における通過率は 55.2% となっています。原因として、グラフから銅と酸素の結び付き割合が見いだせていなかったり、銅と酸素が結び付き反応をモデルと関連付けることができず、酸素の質量ではなく、酸化銅の質量を求めたりしていることが考えられます。そこで、次のような視点での授業改善が考えられます。

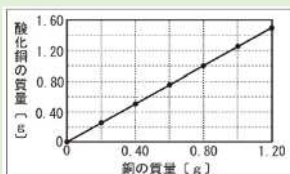
イ 授業改善のポイント

【学習課題】 銅と酸素が結び付くとき、それぞれの物質の質量には、どのような関係があるだろうか。

<結果>

加熱した回数 [回]	0	1	2	3	4	5
酸化銅の質量 [g]	0.40	0.44	0.47	0.49	0.50	0.50

<考察場面>



T: 結果から、どのようなことが考えられますか。

S1: グラフから、銅の質量と酸化銅の質量は比例していることがわかります。

S2: 銅と酸素が結び付くとき、一定の割合で結び付くことがわかります。

S2: 銅と酸素が結び付くとき、結び付き銅と酸素の割合は 4 : 1 になることがわかります。

T: そうなんですね。では、一定の割合で結び付くことをモデル図を使って説明してみましょう。

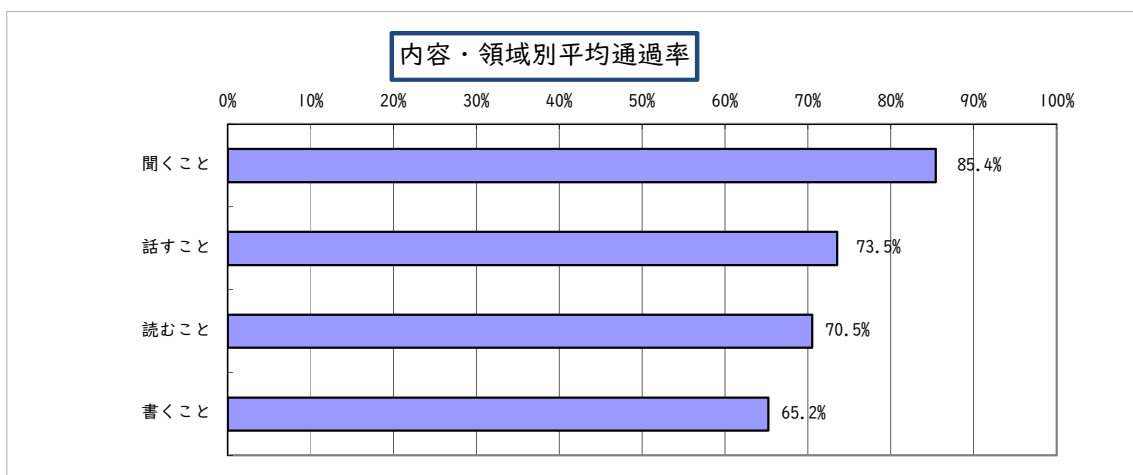
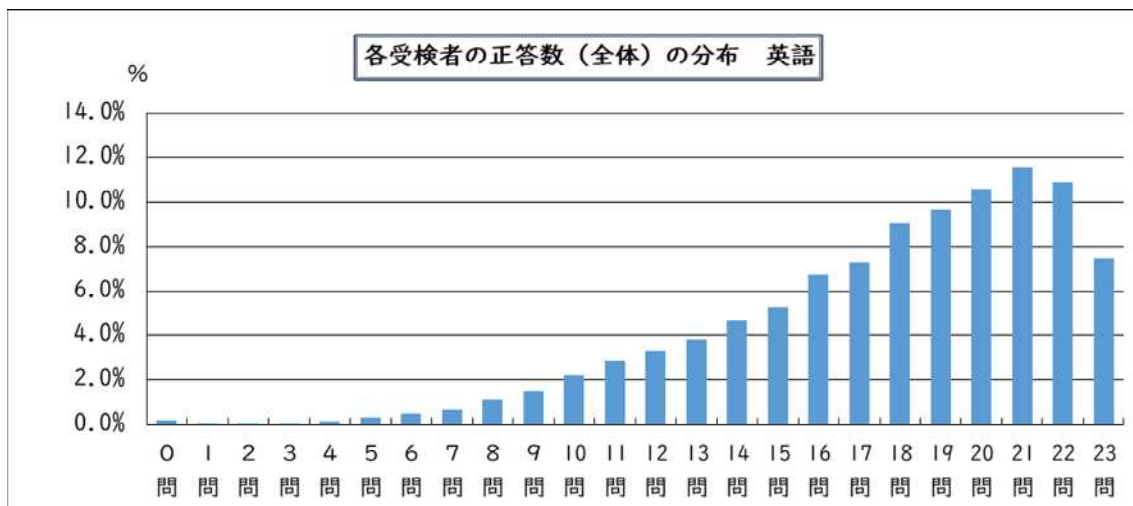
実験の結果を整理する際には、グラフを作成することで、「酸化銅の質量」と「銅の質量」とを視覚的に関係付けます。その際、ICT等を活用し、複数の班の結果を統合することで、規則性がより見だしやすくなります。

実験の化学変化をモデルで考え、説明することで、微視的に事物・現象を捉えることができ、銅と酸素が一定の割合で反応することを理解しやすくなります。

中学校第1学年【英語】

(1) 中1平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率			中1	中2
	知識・技能		78.1%	71.3%
	思考・判断・表現		75.4%	71.3%
	全体		77.0%	71.4%



- 「知識・技能」については、平均通過率が78.1%と昨年度よりも上昇しており、全体として成果が見られつつあります。特に、勧誘を断る表現を選択する問題は、昨年度40.9%だったものが81.2%となりました。一方で、be動詞の否定文の語順を問う問題は44.8%、対話の流れから適切な語を補って文を完成させる問題は58.4%と通過率が特に低く、例年課題となっている内容について改善が図られていない実態も見られます。
- 「思考・判断・表現」については、平均通過率が75.4%と全体として改善傾向にあります。特に、「書くこと」の問題における「コミュニケーションに支障をきたさないように英文を書く視点」は、昨年度58.7%だったものが80.9%となりました。一方で、「メッセージの内容に対して自分の考えを書く問題」は39.4%、「英文の要点を把握し、適切な英文を選択する問題」は54.4%と通過率が特に低く、「知識・技能」と同様に、例年課題となっている内容について改善が図られていない実態も見られます。
- 内容・領域別に見ると、「書くこと」において、平均通過率が昨年度71.3%から65.2%と大幅に下降し、課題が見られます。「知識・技能」、「思考・判断・表現」において課題となっている部分と関連しており、4技能の中でも特に難易度が高い技能に関する出題であることから例年課題となっております。引き続き各学校における粘り強い取組が必要です。

(2) 各設問の分類と平均通過率

英語（中学校第1学年）

設問	出題学年			学習指導要領の領域				評価の観点		県平均通過率	県平均無回答率	校内平均通過率	校内平均無回答率	出題の意図
	大問	中問	小問	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	知識・技能	思考・判断・表現					
1		(1)	中1	○				○		85.5%	0.1%			英語を聞いて、ノートを閉じる指示を聞き取ることができるか。
2	1	(2)	中1	○				○		95.1%	0.0%			英語を聞いて、複数のものの数とその場所を聞き取ることができるか。
3		(3)	中1	○				○		75.7%	0.1%			英語を聞いて、正しい時刻を聞き取ることができるか。
4		(1)	中1	○	○			○		86.9%	0.1%			所属する部活動を尋ねる質問に正しく答えることができるか。
5	2	(2)	中1	○	○			○		88.0%	0.1%			写真に写った人物について尋ねる質問に正しく答えることができるか。
6		(3)	中1	○	○			○		81.2%	0.1%			勧誘に対して適切に答えることができるか。
7	3		中1	○				○		98.2%	0.0%			家族の紹介を聞いて、話の流れに沿って、内容を捉えることができるか。
8	4		中1	○				○		80.6%	0.1%			自己紹介を聞いて、情報を整理しながら、その内容を捉えることができるか。
9	5		中1	○				○		84.8%	0.1%			対話を聞いて、その概要を捉えることができるか。
10	6		中1	○	○			○		78.5%	0.1%			イベントの説明を聞いて、情報を整理しながら、質問に対して適切に応じることができるか。
11	7		中1			○		○		85.0%	0.1%			メッセージを読んでその内容を把握し、話の流れに合う写真を選択することができるか。
12	8	(1)	中1			○		○		77.5%	0.2%			対話文を読み、代名詞が指す適切な語を選択することができるか。
13		(2)	中1			○		○		64.0%	0.3%			メール文から必要な情報を読み取り、適切なイベントを選択することができるか。
14	9	(1)	中1			○		○		82.1%	0.4%			グラフと選択肢の内容を正確に把握し、グラフの内容を表す正しい英文を選択することができるか。
15			中1			○		○		79.1%	0.5%			
16		(2)	中1			○			○		82.4%	0.4%		
17	10		中1			○		○		54.4%	0.9%			スピーチ文の内容を把握し、適切な英文を選択することができるか。
18	11		中1			○	○	○		39.4%	14.1%			メッセージの内容を捉え、自分の考えを適切に示すことができるか。
19	12	(1)	中1		○		○	○		44.8%	1.1%			be動詞の否定文を正しい語順で答えることができるか。
20		(2)	中1		○		○	○		76.5%	1.0%			疑問詞を含む疑問文を正しい語順で答えることができるか。
21	13		中1		○		○	○		58.4%	5.8%			対話の流れや文法事項などを理解し、適切な語を補って表現できるか。
22	14	A	中1				○	○		90.9%	3.2%			自分の考えを整理し、まとまりのある英文を書くことができるか。
23		B	中1				○	○		80.9%	3.3%			
計				問題数	10	7	8	6	13	10				
				出題割合	40.0%	28.0%	32.0%	24.0%	56.5%	43.5%				
										77.0%	1.4%			

(3) 英語 <中学校第1学年>

ア 特徴ある問題から 大問10

(中学校学習指導要領〔外国語編〕第2, 1, (2), ウと関連 p21)

学習指導要領解説の該当箇所に、「社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。」とあります。本問題では、AIを搭載したロボットの社会利用を話題とし、要点や文脈を踏まえて筆者の主訴を捉えられるかについて出題したところ、平均通過率が54.4%でした。下の解答のポイントや誤答傾向を踏まえると、内容理解や音読をさせる際に課題があると考えられます。それらを改善するためのポイントを下の「イ」にまとめました。

図 次は、英語の課題に「AI robots」(人工知能ロボット)というテーマでスピーチをすることになったミカが作成したスピーチ原稿です。英文を読んで、に入る最も適切なものを、下のア～ウの中から一つ選び、記号で答えなさい。

Hello, everyone.  
Do you know about AI robots? We see them at some restaurants. But my grandfather doesn't like them.  
My grandfather has a Japanese restaurant in Kirishima City. He often says, "I want to talk with customers" and say "thank you" with a smile in my restaurant. So I don't want AI robots here."  
I like AI robots in restaurants. We can get our dishes\* from the robots. They also talk to us. That's very interesting\*. Everyone enjoys AI robots there.  
I like my grandfather's idea\*. But AI robots are nice. They sometimes cook dishes. My grandfather can use AI robots in many ways\*.   
I want to talk with him about that.  
Thank you.

(注) say(s) ～と話す customer(s) 客 with a smile 笑顔で dish(es) 皿, 料理 interesting おもしろい idea 考え way(s) 方法

ア He cooks very well.  
イ They're nice restaurants.  
ウ We can work with AI robots.

**【解答のポイント】**

- 1 文章の内容を捉えたか。
- 2 筆者の意向を汲み取ることができたか。
- 3 全体の文脈を踏まえた判断ができたか。

**【誤答傾向(予測)】**

- ・ まとまりのある文を読むこと自体に苦手意識がある。
- ・ 空欄の直前や直後だけ読み、文脈を読み違えた。
- ・ 筆者の意向を汲み取る読み方ができなかった。

イ 授業改善のポイント

課題が見られた主な問題 大問10 リーディング問題

- 1 初期段で文頭から英語の語順で読ませる習慣づくりをする  
英文を単語が出てくる順番で読ませる。(日本語の語順に合わせた「返り読み」をさせない。)その指導を通して、「誰が」「どうした」「何を」「いつ」などの英語特有の語順で英文を理解させる習慣を付けさせ、文構造の理解を促す。
- 2 「大きなこと」から次第に「小さなこと」を読み取らせ、新出事項に出会わせる指導をする(「まず単語から」は逆!)  
英文を読ませる際には、Top-down processingの手法を意識し、まず概要を捉えさせる。その後、要点や必要な情報を捉えさせ、次第に細かい部分を確認するなどしながら内容の理解を図る。未習事項や分からない箇所は前後や文脈から推測することも指導し、新出事項や忘却した事項等に出会わせ、疑問をもたせてから指導する授業を行う。また、既習事項の定着を図るために、繰り返し出会わせる工夫も意図的に行う。

課題が見られた主な問題 大問10 リーディング問題

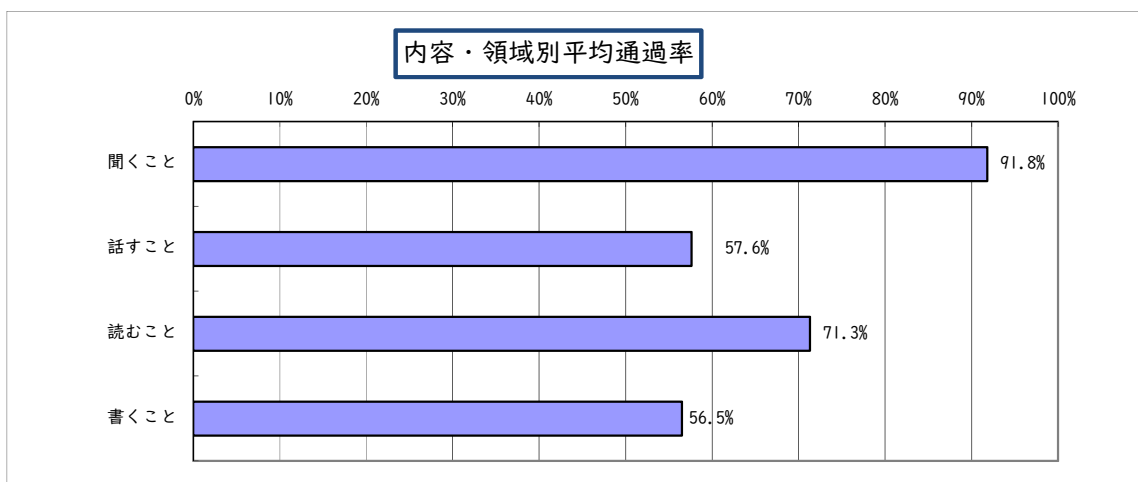
- 3 語の働きや機能、文章構成の特徴などを理解させる  
語や連語などについては、意味だけではなく文章中での働きや機能、ニュアンス等を理解させる。また、文章全体や各段落の構成や特徴を捉えさせる指導も確実に行う。
- 4 推論発問やリテリング等を取り入れる  
教科書本文の内容理解の最後に、推論発問(直接書かれていないことを推測させる発問)や評価発問(内容に対して自分は思うかを問う発問)、リテリングを通して理解度を確認しながら、表現する力も同時に育成する工夫を行う。
- 5 音読を大切にする  
教科書本文の内容理解を終えた後のreading aloudを充実させる。(時間が少ないからと短縮しない。)複数の手法を組み合わせ、内容をよりの確に表出するような音読をさせる。

内容理解の際は、いきなり新出単語を扱ったり、文単位で最初から意味をとろうとしたりせず、文章全体を通した大きなもの(概要)から捉えて、次第に小さなもの(内容)を捉えていく読み方をさせましょう。その際、全ての英文を日本語に置き換える必要はありません。また、分からない箇所があったら前後から推測して読ませることに普段から取り組んでおく効果的です。文章の中で新出事項に上手に出会わせ、より効果的な学習過程の工夫を図りましょう。

接続詞の働きなどに注目させ、全体の文章構成を把握させながらその先を推測させる活動も効果的です。また、推論発問を活用して、教科書には書いていない文章の続きや登場人物の心情について、書いてあることを根拠に推測させると、行間を読ませる深い読みにつながります。音読は、内容理解の後にその内容を表出する工夫をさせると、内容理解が更に深まります。しっかり時間を確保し複数の手法(chorus, buzz, read and look up, shadowingなど)を使いながら、感情を込めるなどして内容を踏まえて上手に読める生徒を増やしましょう。

(1) 中2平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率		中1	中2
	知識・技能	78.1%	71.3%
	思考・判断・表現	75.4%	71.3%
	全体	77.0%	71.4%



- 「知識・技能」については、平均通過率が71.3%と全体として成果が見られつつあります。特に、「聞くこと」の問題は3問とも90%を超えており、昨年度結果を大きく上回りました。一方で、「対話の流れから適切な語を補って文を完成させる問題」は35.7%、「与えられた情報に基づいて正確に英文を書く問題」は46.5%、「二つの目的語をとる動詞の語順を正確に答える問題」は58.9%と通過率が特に低く、例年課題となっている内容について改善が進んでいない状況です。
- 「思考・判断・表現」については、平均通過率が71.3%となり改善傾向にあります。特に、「読んで把握した内容について自分の考えを書く問題」は、昨年度47.4%だったものが66.7%になりました。一方で、書くことの問題における「コミュニケーションに支障をきたさないように英文を書く視点」は44.3%、「スピーチの概要を捉え、適切な語を選択する問題」は48.7%と通過率が特に低く、「知識・技能」と同様に、例年課題となっている内容について改善が進んでいない状況です。
- 内容・領域別に見ると、「書くこと」「話すこと」の平均通過率が低く、課題となっています。特に「書くこと」においては、平均正答率が昨年度の55.3%とほぼ同等となっており改善が見られませんでした。例年課題となっておりますが、結果として改善が図られていない状況が続いており、引き続き各学校における粘り強い取組が必要です。



## (2) 各設問の分類と平均通過率

## 英語（中学校第2学年）

設問	設問			学習指導要領の領域				評価の観点		県平均通過率	県平均回答率	校内平均通過率	校内平均無回答率	出題の意図
	大問	中問	小問	出題学年	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	知識・技能					
1		(1)		中1	○				○		96.7%	0.1%		日常的な場面における英語を聞いて、適切な絵を選択することができるか。
2	1	(2)		中2	○				○		95.6%	0.1%		日常的な話題に関する対話を聞いて、適切な絵を選択することができるか。
3		(3)		中2	○				○		94.1%	0.1%		日常的な話題に関する対話を聞いて、適切な絵を選択することができるか。
4	2			中1・2	○				○		90.0%	0.1%		まとまりのある英文を聞いて、概要を捉えることができるか。
5	3			中1・2	○				○		90.6%	0.1%		まとまりのある英文を聞いて、必要な情報を捉えることができるか。
6	4			中1・2	○				○		87.5%	0.2%		まとまりのある英文を聞いて、必要な情報を捉えることができるか。
7	5			中1・2	○				○		88.3%	0.2%		まとまりのある英文を聞いて、要点を捉えることができるか。
8		(1)		中2			○		○		79.1%	0.2%		英文を読んで、接続詞を適切に選択することができるか。
9	6	(2)	①	中2		○	○		○		62.4%	0.3%		文と文のつながりに注意して、適切な英文を選択することができるか。
10			②	中2		○	○		○		65.3%	0.3%		
11		(1)		中2			○		○		48.7%	0.4%		スピーチの概要を捉え、適切な語を選択することができるか。
12		(2)		中2			○		○		81.6%	0.3%		道案内の内容を正確に捉え、適切な絵を選択することができるか。
13		(3)	①	中2			○		○		92.3%	0.4%		グラフの内容を正しく表す英文を選択することができるか。
14			②	中2			○		○		87.4%	0.4%		
15		(1)		中2			○		○		78.9%	0.5%		英文の概要を把握し、その内容を適切に説明しているものを選択することができるか。
16	8	(2)		中2			○		○		51.0%	0.6%		英文の内容を把握し、適切な英文を選択することができるか。
17	9			中2			○	○	○		66.7%	8.4%		メッセージの内容を捉え、自分の考えを適切に示すことができるか。
18		(1)		中2		○		○	○		76.4%	0.7%		have to の用法を理解し、正しい語順を答えることができるか。
19		(2)		中2		○		○	○		58.9%	0.8%		二つの目的語をとる動詞の用法を理解し、正しい語順を答えることができるか。
20		(3)		中2		○		○	○		64.9%	0.8%		不定詞の副詞的用法を理解し、正しい語順を答えることができるか。
21		(1)		中1		○		○	○		35.7%	10.0%		対話の流れや文法事項などを理解し、適切な語を補って表現することができるか。
22	11	(2)		中2		○		○	○		39.3%	10.3%		
23		(1)		中1				○	○		46.5%	8.4%		与えられた情報に基づいて、文法事項などを理解し、正確に書くことができるか。
24	12	(2)		中1				○	○		64.8%	7.7%		
25			内容	中1・2				○	○		67.3%	12.8%		与えられたテーマについて、自分の考えを整理し、まとまりのある英文を書くことができるか。
26	13		正確					○	○		44.3%	12.9%		
計				問題数	7	7	10	10	16	10				
				出題割合	33.3%	33.3%	47.6%	47.6%	61.5%	38.5%				
											71.4%	3.0%		

(3) 英語 <中学校第2学年>

ア 特徴ある問題から 大問13

(中学校学習指導要領〔外国語編〕2, (2), ウと関連 p53)

学習指導要領解説の該当箇所に身に付けさせるべき事項として、「日常的な話題や社会的な話題について、伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして互いに事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合うこと。」とあります。本問題では、相手の意向に沿って自分の考えを的確に書くことができるかについて出題したところ、視点B(文の正確性)において平均通過率[44.3%]、無答率[12.9%]でした。下の解答のポイントや誤答傾向を踏まえると、言語材料の導入や言語活動の在り方、フィードバックの在り方に課題があると考えられます。それらを改善するためのポイントを下の「イ」にまとめました。

13 あなたの学校との姉妹校であるオーストラリアの学校の生徒ジャック(Jack)が、家族で鹿児島を旅行する計画をしています。あなたは、ジャックが鹿児島での滞在を楽しめるよう、電子メールでアドバイスしようとしています。下の「ジャックからのメッセージ」を基に、アドバイスを文章を15語以上の英語で書きなさい。ただし、英文は2文以上になってかまいません。

ジャックからのメッセージ

○ どの季節に鹿児島に行くのがよいか悩んでいるので、教えてほしい。  
○ なぜその季節がいいのか、鹿児島で訪れるべき場所やそこでできること、楽しめることなどを紹介しながら、その季節がいい理由を具体的に教えてほしい。

**〔解答のポイント〕**

- 1 書く内容について、自分なりの発想があったか。
- 2 発想した内容は適切であったか。
- 3 発想したことについて、適切な英語で表現できたか。

**〔誤答傾向(予測)〕**

- ・ 自分が書ける英語の範囲内の文が思いつかない。
- ・ 書いている内容が不自然になっている。
- ・ つづりや文法的なルールに関する事項が定着していない。

イ 授業改善のポイント

**課題が見られた主な問題 大問13 ライティング問題**

1 言語材料の習得においては場面や文脈の中で出会わせ働きや機能も理解させ、それらを想起させる言語活動を行う

言語材料は、そのみを別途扱うのではなく、**文脈や場面の中で出会わせ**、意味だけでなく**働きや機能を感じられるよう導入**する。その後の言語活動においては、**目的・場面・状況**が確実に設定された活動を行わせ、学習した語や表現を「使う感覚」を伴った活動を通して、言葉として習得させる。

2 例文を示さずには使わせてみる(「Try and Error」)

例文を見たままいくら繰り返しても、効果的な定着は望めない。始めは**間違いを繰り返しながら使用させ、何度も思い出させながら徐々に定着を図ることが大切**である。  
キーワードやヒント等を示す場合は、「**示しすぎ**」に注意する。始め示したのも、徐々に取り除いて最終的には自分の力で表現させるよう**段階を設定**する。その際、取り組み方や最終的な表現の個人差に応じた**個別最適な学び**を展開する。

**課題が見られた主な問題 大問13 ライティング問題**

3 既習の表現等を何度も使わせる場を設定する

既習表現等を繰り返し使わせる場合は、定着度が低いもの、使用頻度や必要性が高いものを優先する。教科書にある活動をアレンジしたり、**タスク活動や帯活動**を設定したりするなどして、何度も使わせる場を意図的に創出する。始めは「**Try and Error**」の精神で、とにかく話すこと、書くことを奨励し、**エラーの分だけ正確性が上がることを意識させた活動**を行う。

4 フィードバックを工夫し正確性を上げる

正確性については、まずは大きな(重大な)エラーから自分で修正できるよう、修正の視点等を与えながら指導し、次第に小さな(些末的な)エラーまでなくなることを目指す。その際、エラーを**明示的**(教師が言う)あるいは**暗示的**(生徒に気付かせる)に示すなど、状況に応じて効果的になるよう工夫する。併せて、表現の「**正確さ**」と「**流暢さ**」のバランスについては、生徒の意欲等を踏まえて**教師がコントロール**する。(エラーを気にしない→エラーを○程度にする→エラーがほぼない)

単語や基本文はそれだけを切り離して単独で扱わずに、本文の流れの中で出会わせて、そこから必要に応じて取り出して掘り下げましょう。活動をさせる際は、始めはワークシートや○○カード等の補助が必要ですが、それらは徐々に取り除きながら最終的には生徒が自分で活動できるようにしましょう。ヒントの示しすぎや補助の常態化は、生徒の自走の妨げになっている可能性がある所以要注意です。教師も生徒も「Try and Error」の精神で、まずはやってみる、くじけず何度もすることが大切です。

定着に向けては反復が鍵になりますが、扱える回数等には限界があるので、優先度の高い順に効果的な繰り返しができるよう、単元を貫く Large Task や帯活動等を取り入れ、意図的に指導しましょう。正確性については、生徒が自分で修正できるようになることを目指して、明示的にはっきりと修正する内容や暗示的に気付かせる内容等を使い分けて、フィードバックを工夫しましょう。その際、正確さを気にしすぎて表現そのものが滞ることを避けるようにするなど、流暢さと正確さのバランスをとることに留意しましょう。

## 【参考資料】 地区別の平均通過率

各地区の平均値のみではなく、標準偏差と中央値を示しました。各地区においては、平均値のみでは把握しきれない児童生徒の実態を考察し、今後の指導に生かしていただきたいと考えます。

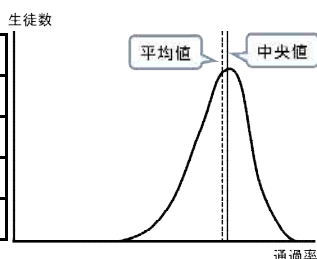
### 【語句の説明】

「標準偏差」は平均値を基準とした、データのちらばり具合を表した数。

「中央値」はデータを大きい順に並び替えたときに、ちょうど真ん中に位置する値。

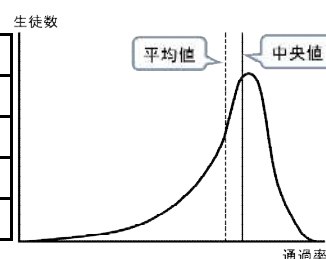
### 【例1】

		生徒数
A	平均値 (%)	73.0
	中央値	74.0
	標準偏差	9.0
	参加者数 (数)	1300



### 【例2】

		生徒数
B	平均値 (%)	70.0
	中央値	75.0
	標準偏差	15.0
	参加者数 (数)	1300



平均値と中央値がほぼ同じで、標準偏差も小さいため、度数分布で表したとき、ちらばりの幅の少ない山になり、平均値付近に児童生徒が多

中央値が平均値より上にあり、標準偏差も大きいため、平均値以上の児童生徒が多いことを表している。度数分布で表

### (1) 小学校第5学年

		県全体	鹿児島市	鹿児島	南薩	北薩	始良・伊佐	大隅	熊毛	大島
国語	平均値 (%)	68.5%	68.5%	69.3%	66.5%	69.7%	68.6%	66.5%	73.7%	69.1%
	中央値	68.2	68.2	72.7	68.2	72.7	72.7	68.2	77.3	72.7
	標準偏差	16.7	16.5	16.6	16.4	16.4	16.9	17.9	13.4	17.0
	参加者数 (人)	12963	5057	590	843	1535	2090	1687	334	827
社会	平均値 (%)	65.3%	65.0%	64.8%	62.0%	68.2%	65.2%	62.1%	72.1%	68.7%
	中央値	70.4	70.4	70.4	66.7	74.1	70.4	66.7	74.1	74.1
	標準偏差	22.0	22.0	22.4	22.0	20.5	21.8	23.8	18.4	21.0
	参加者数 (人)	12980	5065	594	852	1533	2086	1679	335	836
算数	平均値 (%)	74.6%	74.0%	73.5%	74.0%	77.1%	74.7%	72.3%	79.8%	77.9%
	中央値	75.0	75.0	75.0	75.0	81.3	75.0	75.0	81.3	81.3
	標準偏差	18.6	18.8	19.8	18.3	16.9	17.8	20.9	14.7	17.4
	参加者数 (人)	12974	5064	594	852	1535	2085	1676	334	834
理科	平均値 (%)	75.4%	75.5%	75.5%	73.1%	78.1%	75.4%	73.3%	81.3%	75.1%
	中央値	80.0	80.0	80.0	75.0	80.0	80.0	75.0	85.0	80.0
	標準偏差	17.9	18.1	17.4	17.8	16.2	17.6	19.5	14.0	18.2
	参加者数 (人)	12980	5062	590	846	1534	2096	1687	334	831

## (2) 中学校第1学年

		県全体	鹿児島市	鹿児島	南薩	北薩	始良・伊佐	大隅	熊毛	大島
国語	平均値(%)	75.9%	76.3%	76.5%	76.9%	73.3%	77.6%	74.4%	78.5%	74.3%
	中央値	79.2	79.2	79.2	79.2	79.2	83.3	79.2	83.3	79.2
	標準偏差	17.9	17.8	16.8	17.6	18.6	16.5	19.1	16.8	18.1
	参加者数(人)	12163	4696	616	838	1479	1876	1550	285	823
社会	平均値(%)	54.4%	54.7%	51.0%	54.2%	52.8%	54.9%	53.5%	60.5%	55.1%
	中央値	55.6	55.6	51.9	55.6	51.9	55.6	51.9	59.3	55.6
	標準偏差	22.0	22.7	21.1	21.4	21.5	10.7	22.4	19.7	21.0
	参加者数(人)	12246	4722	620	812	1489	1896	1606	285	816
数学	平均値(%)	74.3%	74.7%	73.2%	73.3%	74.7%	73.9%	73.9%	77.9%	73.1%
	中央値	78.9	78.9	78.9	78.9	78.9	78.9	78.9	84.2	78.9
	標準偏差	20.1	20.3	19.6	19.9	19.7	20.2	20.3	18.9	19.8
	参加者数(人)	12230	4696	614	844	1483	1901	1590	284	818
理科	平均値(%)	66.3%	66.7%	65.3%	68.9%	65.6%	65.1%	65.1%	67.5%	66.4%
	中央値	66.7	66.7	62.5	70.8	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7
	標準偏差	20.1	19.6	28.1	18.3	18.6	19.4	20.2	18.8	19.3
	参加者数(人)	12329	4722	705	811	1483	1892	1604	285	827
英語	平均値(%)	77.0%	77.9%	78.0%	77.0%	76.0%	77.1%	75.2%	76.0%	76.6%
	中央値	82.6	82.6	82.6	78.3	78.3	82.6	78.3	78.3	78.3
	標準偏差	18.0	18.6	17.3	17.1	18.0	17.3	18.0	16.8	18.0
	参加者数(人)	12208	4679	613	850	1484	1896	1587	286	813

## (3) 中学校第2学年

		県全体	鹿児島市	鹿児島	南薩	北薩	始良・伊佐	大隅	熊毛	大島
国語	平均値(%)	65.6%	66.1%	65.8%	67.6%	64.7%	65.2%	63.7%	70.6%	63.6%
	中央値	68.0	68.0	68.0	68.0	68.0	68.0	64.0	72.0	64.0
	標準偏差	18.7	18.6	19.2	18.6	18.7	18.7	18.8	15.9	19.4
	参加者数(人)	11785	4502	552	787	1458	1822	1611	265	788
社会	平均値(%)	62.3%	61.6%	61.1%	63.5%	66.3%	61.3%	60.2%	64.5%	62.7%
	中央値	63.0	63.0	63.0	63.0	70.4	63.0	59.3	66.7	63.0
	標準偏差	20.5	20.9	20.2	18.7	19.9	20.2	20.8	18.4	20.8
	参加者数(人)	11768	4469	551	769	1468	1829	1648	263	771
数学	平均値(%)	68.8%	69.5%	69.4%	70.5%	66.8%	68.2%	67.0%	74.1%	68.8%
	中央値	70.0	75.0	75.0	75.0	70.0	70.0	70.0	75.0	70.0
	標準偏差	21.3	21.7	21.5	20.4	21.6	21.2	21.5	18.7	20.4
	参加者数(人)	11802	4469	545	797	1459	1831	1657	267	777
理科	平均値(%)	66.9%	67.7%	69.6%	68.8%	66.0%	64.8%	64.1%	70.1%	68.0%
	中央値	65.4	69.2	69.2	69.2	65.4	65.4	61.5	69.2	69.2
	標準偏差	18.3	18.2	17.1	21.1	17.8	18.1	17.8	16.2	18.1
	参加者数(人)	11864	4523	551	790	1470	1826	1653	265	786
英語	平均値(%)	71.4%	73.3%	71.9%	69.6%	69.7%	71.1%	68.3%	74.3%	70.8%
	中央値	73.1	76.9	76.9	73.1	73.1	73.1	69.2	76.9	73.1
	標準偏差	21.0	21.3	20.4	20.3	20.5	20.3	21.5	19.3	21.2
	参加者数(人)	11787	4461	546	798	1458	1835	1654	263	772

【参考資料】

令和5年度鹿児島学習定着度調査 児童生徒質問紙集計（県全体）

※ 割合のため必ずしも合計が100%にはなりません。全体の傾向として御活用ください。

1 あなた自身のことについて、当てはまるものを選んでください。

(1) 学校の授業はよくわかりますか。

教科ごとに一つ選んでください。

- ① よくわかる
- ② まあまあわかる
- ③ あまりわからない
- ④ わからない

国語	小5	中1	中2
①	43.6%	36.2%	31.7%
②	49.0%	52.8%	55.2%
③	6.4%	9.3%	11.5%
④	1.0%	1.7%	1.7%

社会	小5	中1	中2
①	52.4%	40.0%	40.6%
②	38.2%	40.6%	43.2%
③	8.2%	16.3%	13.5%
④	1.2%	3.2%	2.6%

算・数	小5	中1	中2
①	51.7%	36.5%	32.4%
②	34.0%	38.5%	40.2%
③	11.8%	19.8%	21.1%
④	2.5%	5.2%	6.2%

理科	小5	中1	中2
①	57.2%	35.6%	35.3%
②	34.2%	45.3%	44.7%
③	7.2%	15.9%	16.4%
④	1.4%	3.2%	3.6%

外国語	小5	中1	中2
①		35.9%	28.4%
②		38.2%	38.3%
③		18.9%	23.7%
④		7.0%	9.5%

(2) 学校の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

教科ごとに一つ選んでください。

- ① 当てはまる
- ② どちらかといえば当てはまる
- ③ どちらかといえば当てはまらない
- ④ 当てはまらない

国語	小5	中1	中2
①	56.5%	49.2%	46.5%
②	36.9%	41.6%	43.8%
③	5.3%	7.2%	7.8%
④	1.3%	2.0%	1.9%

社会	小5	中1	中2
①	68.7%	40.5%	35.8%
②	25.6%	41.4%	43.5%
③	4.7%	14.4%	16.6%
④	1.1%	3.7%	4.1%

算・数	小5	中1	中2
①	70.3%	54.3%	44.4%
②	23.6%	32.8%	37.6%
③	4.7%	9.6%	13.9%
④	1.4%	3.2%	4.1%

理科	小5	中1	中2
①	43.6%	29.6%	27.1%
②	39.0%	43.8%	44.3%
③	13.7%	20.7%	22.1%
④	3.7%	5.9%	6.5%

外国語	小5	中1	中2
①		63.9%	58.8%
②		25.5%	29.2%
③		6.9%	8.1%
④		3.7%	3.8%

(3) 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）。

- ① している
- ② どちらかといえばしている
- ③ あまりしていない
- ④ 全くしていない

	小5	中1	中2
①	31.2%	20.0%	16.3%
②	37.5%	39.3%	36.7%
③	25.7%	33.1%	37.0%
④	5.5%	7.6%	10.1%

(4) 勉強のやり方が、自分に合っているかどうかを考えながら勉強していますか。

- ① している
- ② どちらかといえばしている
- ③ あまりしていない
- ④ 全くしていない

	小5	中1	中2
①	34.4%	25.2%	25.1%
②	38.8%	36.3%	35.0%
③	21.5%	29.8%	29.6%
④	5.3%	8.6%	10.3%

(5) これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

- ① している
- ② どちらかといえばしている
- ③ あまりしていない
- ④ 全くしていない

	小5	中1	中2
①	31.4%	24.4%	23.1%
②	51.5%	51.4%	51.6%
③	14.8%	20.3%	20.8%
④	2.3%	3.9%	4.5%

(6) これまでに受けた授業は、自分にあった教え方、学習内容、学習時間などになっていましたか。

- ① している
- ② どちらかといえばしている
- ③ あまりしていない
- ④ 全くしていない

	小5	中1	中2
①	43.6%	25.5%	20.8%
②	46.6%	55.8%	58.1%
③	8.4%	15.9%	17.3%
④	1.5%	2.9%	3.8%

(7) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。

- ① している
- ② どちらかといえばしている
- ③ あまりしていない
- ④ 全くしていない

	小5	中1	中2
①	50.1%	45.7%	43.9%
②	38.6%	42.3%	44.1%
③	9.6%	9.7%	9.4%
④	1.7%	2.3%	2.6%

(8) 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

- ① している
- ② どちらかといえばしている
- ③ あまりしていない
- ④ 全くしていない

	小5	中1	中2
①	38.7%	29.1%	26.1%
②	45.8%	47.4%	48.6%
③	13.3%	19.9%	21.1%
④	2.2%	3.6%	4.1%

(9) 自分には、よいところがあると思いますか。

- ① 当てはまる
- ② どちらかといえば当てはまる
- ③ どちらかといえば当てはまらない
- ④ 当てはまらない

	小5	中1	中2
①	36.7%	30.8%	31.1%
②	42.1%	44.5%	45.9%
③	14.0%	16.5%	16.0%
④	7.2%	8.3%	7.0%

(10) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

- ① 当てはまる
- ② どちらかといえば当てはまる
- ③ どちらかといえば当てはまらない
- ④ 当てはまらない

	小5	中1	中2
①	46.8%	36.7%	35.0%
②	40.7%	48.4%	51.0%
③	9.0%	10.6%	10.2%
④	3.5%	4.2%	3.8%

(11) 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。

- ① よくある
- ② ときどきある
- ③ あまりない
- ④ 全くない

	小5	中1	中2
①	49.6%	44.1%	43.4%
②	39.4%	43.4%	45.5%
③	9.2%	10.6%	9.7%
④	1.8%	1.9%	1.4%

(12) あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。

- ① している
- ② どちらかといえばしている
- ③ あまりしていない
- ④ 全くしていない

	小5	中1	中2
①	33.1%	25.5%	24.5%
②	49.9%	51.5%	52.3%
③	13.7%	18.4%	18.7%
④	3.3%	4.6%	4.5%

(13) 自分でやると決めたことは、やりとげるようにしていますか。

- ① している
- ② どちらかといえばしている
- ③ あまりしていない
- ④ 全くしていない

	小5	中1	中2
①	45.7%	42.1%	43.2%
②	43.5%	46.4%	45.7%
③	9.3%	9.8%	9.5%
④	1.6%	1.8%	1.6%

(14) 難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか。

- ① している
- ② どちらかといえばしている
- ③ あまりしていない
- ④ 全くしていない

	小5	中1	中2
①	33.2%	25.9%	24.9%
②	44.6%	45.2%	45.3%
③	18.3%	23.6%	24.9%
④	3.9%	5.2%	4.9%

2 次のような授業で学んでいてどのように感じるか、当てはまるものを選んでください。

(1) 先生の説明の時間が多い授業

- ① とてもやりがいを感じる
- ② やりがいを感じる
- ③ あまりやりがいを感じない
- ④ やりがいを感じない

	小5	中1	中2
①	19.8%	9.2%	7.4%
②	54.0%	42.4%	36.2%
③	21.3%	38.7%	43.8%
④	4.9%	9.7%	12.6%

(2) 自分たちで考えたり、話し合ったりする授業

- ① とてもやりがいを感じる
- ② やりがいを感じる
- ③ あまりやりがいを感じない
- ④ やりがいを感じない

	小5	中1	中2
①	40.4%	37.3%	35.7%
②	48.9%	51.0%	52.7%
③	9.2%	9.9%	9.7%
④	1.5%	1.8%	1.9%

(3) 自分たちが発表したり、友達の発表を聞いたりすることが多い授業

- ① とてもやりがいを感じる
- ② やりがいを感じる
- ③ あまりやりがいを感じない
- ④ やりがいを感じない

	小5	中1	中2
①	37.7%	37.3%	22.7%
②	50.2%	51.0%	55.8%
③	10.3%	9.9%	17.9%
④	1.7%	1.8%	3.5%

(4) 難しい課題に挑戦する授業

- ① とてもやりがいを感じる
- ② やりがいを感じる
- ③ あまりやりがいを感じない
- ④ やりがいを感じない

	小5	中1	中2
①	43.4%	34.6%	30.2%
②	41.9%	46.2%	47.8%
③	12.2%	15.6%	17.7%
④	2.4%	3.7%	4.2%

(5) 自分たちで調べて、課題を解決する授業

- ① とてもやりがいを感じる
- ② やりがいを感じる
- ③ あまりやりがいを感じない
- ④ やりがいを感じない

	小5	中1	中2
①	44.8%	39.2%	36.3%
②	45.0%	48.2%	50.7%
③	8.6%	10.4%	10.8%
④	1.5%	2.1%	2.3%

(6) タブレットやパソコン、電子黒板等を活用した授業

- ① とてもやりがいを感じる
- ② やりがいを感じる
- ③ あまりやりがいを感じない
- ④ やりがいを感じない

	小5	中1	中2
①	45.4%	32.3%	29.3%
②	43.5%	50.2%	52.8%
③	9.3%	14.8%	15.2%
④	1.9%	2.7%	2.7%

3 授業で、タブレットやパソコン、電子黒板等をどれくらい活用していますか。教科ごとに一つ選んでください。

- ① ほぼ毎日使用している
- ② 週2、3回程度使用している
- ③ 週1回程度使用している
- ④ ほとんど使用していない
- ⑤ 全く使用していない

国語	小5	中1	中2
①	31.4%	14.6%	21.6%
②	33.5%	15.3%	16.6%
③	15.7%	13.7%	13.3%
④	16.4%	35.2%	29.6%
⑤	2.9%	21.2%	18.9%

社会	小5	中1	中2
①	34.5%	30.8%	37.8%
②	26.8%	12.1%	11.9%
③	16.3%	8.6%	8.0%
④	18.6%	25.4%	22.2%
⑤	3.8%	23.1%	20.1%

算・数	小5	中1	中2
①	30.6%	26.4%	30.1%
②	21.2%	10.8%	9.0%
③	14.8%	8.0%	6.3%
④	24.4%	27.2%	23.1%
⑤	9.0%	27.7%	31.5%

理科	小5	中1	中2
①	30.0%	19.6%	30.6%
②	23.1%	15.2%	15.6%
③	17.3%	14.6%	11.3%
④	23.0%	31.8%	24.8%
⑤	6.6%	18.8%	17.8%

外国語	小5	中1	中2
①		35.0%	41.2%
②		14.2%	15.9%
③		11.5%	14.0%
④		24.2%	21.0%
⑤		15.0%	7.9%

4 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（電子書せきを含む。教科書や参考書、まんがやざっしはのぞく。）

- ① 2時間以上
- ② 1時間以上2時間より少ない
- ③ 30分以上1時間より少ない
- ④ 10分以上30分より少ない
- ⑤ 10分より少ない
- ⑥ 全くしない

	小5	中1	中2
①	8.5%	8.6%	7.4%
②	17.0%	16.4%	15.2%
③	25.5%	24.7%	22.9%
④	24.5%	23.2%	23.9%
⑤	13.9%	11.4%	10.8%
⑥	10.5%	15.7%	19.8%

5 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。

- ① だいたい週に4回以上行く。
- ② 週に1～3回程度行く。
- ③ 月に1～3回程度行く。
- ④ 年に数回程度行く。
- ⑤ ほとんど、または、全く行かない。

	小5	中1	中2
①	5.8%	3.5%	3.7%
②	21.5%	14.9%	12.4%
③	21.4%	21.0%	19.0%
④	22.3%	22.0%	21.3%
⑤	29.0%	38.7%	43.5%

6 家庭で、インターネットを利用した遊び（スマートフォンのアプリ、ゲーム、SNS、音楽、動画、画像等を見るなど）を、1日当たりどれくらいの時間していますか。平日及び休みの日ごとに一つ選んでください。

- ① していない。
- ② 30分より少ない。
- ③ 30分以上1時間より少ない。
- ④ 1時間以上2時間より少ない。
- ⑤ 2時間以上3時間より少ない。
- ⑥ 3時間以上4時間より少ない。
- ⑦ 4時間以上5時間より少ない。
- ⑧ 5時間以上。

平日	小5	中1	中2
①	9.3%	5.8%	3.8%
②	12.0%	8.1%	5.8%
③	20.1%	16.0%	14.0%
④	24.7%	26.8%	29.1%
⑤	14.4%	20.4%	24.1%
⑥	8.3%	11.0%	11.3%
⑦	5.1%	5.1%	4.9%
⑧	6.1%	6.8%	6.9%

休みの日	小5	中1	中2
①	4.5%	3.2%	2.2%
②	6.5%	3.6%	2.5%
③	11.8%	7.2%	5.2%
④	20.2%	15.0%	12.7%
⑤	18.8%	21.1%	22.3%
⑥	12.5%	17.5%	20.0%
⑦	8.5%	10.4%	12.3%
⑧	17.2%	21.9%	22.7%

7 家庭で、インターネットを利用した学習（タブレットやパソコンでできるドリル練習、検索サイトを使った調べ学習など）を、1日当たりどれくらいの時間していますか。平日及び休みの日ごとに一つ選んでください。

- ① していない。
- ② 30分より少ない。
- ③ 30分以上1時間より少ない。
- ④ 1時間以上2時間より少ない。
- ⑤ 2時間以上3時間より少ない。
- ⑥ 3時間以上4時間より少ない。
- ⑦ 4時間以上5時間より少ない。
- ⑧ 5時間以上。

平日	小5	中1	中2
①	34.1%	42.0%	47.5%
②	29.1%	26.6%	25.1%
③	22.1%	17.7%	15.7%
④	9.2%	8.5%	7.4%
⑤	2.9%	2.7%	2.3%
⑥	1.2%	1.0%	1.0%
⑦	0.6%	0.5%	0.3%
⑧	0.8%	1.0%	0.7%

休みの日	小5	中1	中2
①	39.2%	44.2%	48.8%
②	26.7%	24.4%	23.5%
③	18.3%	15.7%	14.1%
④	8.9%	8.8%	8.1%
⑤	3.5%	3.7%	3.1%
⑥	1.4%	1.4%	1.0%
⑦	0.8%	0.6%	0.5%
⑧	1.4%	1.2%	0.9%

【参考資料】 令和5年度鹿児島学習定着度調査 学校質問紙集計（県全体）

小学校	486	中学校	212
-----	-----	-----	-----

※ 割合のため必ずしも合計が100%にはなりません。全体の傾向として御活用ください。

I 学力向上の取組

(1) 調査対象学年の生徒に対して、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか。

- ① よく行った
- ② どちらかといえば行った
- ③ あまり行わなかった
- ④ 全く行わなかった

	小	中
①	72.2%	65.6%
②	27.8%	34.0%
③	0.0%	0.5%
④	0.0%	0.0%

(2) 調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。

- ① よく行った
- ② どちらかといえば行った
- ③ あまり行わなかった
- ④ 全く行わなかった

	小	中
①	33.2%	20.3%
②	60.6%	72.2%
③	6.2%	7.5%
④	0.0%	0.0%

(3) 調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

- ① よく行った
- ② どちらかといえば行った
- ③ あまり行わなかった
- ④ 全く行わなかった

	小	中
①	33.2%	26.9%
②	58.4%	67.0%
③	8.5%	6.1%
④	0.0%	0.0%

(4) 調査対象学年の児童に対して、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。

- ① よく行った
- ② どちらかといえば行った
- ③ あまり行わなかった
- ④ 全く行わなかった

	小	中
①	42.9%	31.1%
②	56.3%	65.6%
③	0.8%	3.3%
④	0.0%	0.0%

(5) 調査対象学年の児童に対して、授業において、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか。

- ① よく行った
- ② どちらかといえば行った
- ③ あまり行わなかった
- ④ 全く行わなかった

	小	中
①	50.5%	34.0%
②	48.7%	64.2%
③	0.8%	1.9%
④	0.0%	0.0%

(6) 調査対象学年の児童に対して、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。

- ① よく行った
- ② どちらかといえば行った
- ③ あまり行わなかった
- ④ 全く行わなかった

	小	中
①	41.2%	29.2%
②	53.0%	59.9%
③	5.8%	10.8%
④	0.0%	0.0%

(7) 調査対象学年の児童に対して、学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか。

- ① よく行った
- ② どちらかといえば行った
- ③ あまり行わなかった
- ④ 全く行わなかった

	小	中
①	46.4%	31.1%
②	49.7%	65.6%
③	3.9%	3.3%
④	0.0%	0.0%

(8) 調査対象学年の児童に対して、児童のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしましたか。

- ① よく行った
- ② どちらかといえば行った
- ③ あまり行わなかった
- ④ 全く行わなかった

	小	中
①	48.2%	34.0%
②	50.9%	64.6%
③	0.8%	1.4%
④	0.0%	0.0%

(9) 教員同士で互いの授業を自由に参観し、授業改善に向けた意見交換を行っていますか。

- ① よく行った
- ② どちらかといえば行った
- ③ あまり行わなかった
- ④ 全く行わなかった

	小	中
①	36.4%	26.9%
②	48.1%	59.4%
③	15.4%	13.2%
④	0.0%	0.5%



2 かがしま学力向上支援Webシステム単元・領域別評価問題の活用状況

(1)活用頻度

- ① よく活用している
- ② どちらかといえば活用している
- ③ あまり活用していない
- ④ 全く活用していない

国語	小	中
①	36.4%	24.5%
②	53.7%	57.5%
③	9.5%	17.9%
④	0.4%	0.0%

社会	小	中
①	32.9%	27.8%
②	55.3%	61.8%
③	11.3%	10.4%
④	0.4%	0.0%

算・数	小	中
①	39.7%	32.1%
②	51.4%	54.7%
③	8.4%	13.2%
④	0.4%	0.0%

理科	小	中
①	35.0%	34.0%
②	53.1%	56.6%
③	11.7%	9.4%
④	0.2%	0.0%

英語	小	中
①		29.7%
②		58.5%
③		11.8%
④		0.0%

(2)活用状況

項目		行っている	どちらかといえば行っている	どちらかといえば行っていない	行っていない
小学校	授業において、身に付けさせたい資質・能力を育成するための学習課題として活用した	26.5%	55.1%	16.3%	2.1%
	授業において、資質・能力が身に付いているかを確認するための評価問題として活用した	26.1%	51.9%	17.9%	4.1%
	定着が十分でない学習内容について定着を図るための補充問題として活用した	43.2%	46.9%	8.6%	1.2%
	自主的な学習の教材として宿題等に活用した	39.3%	44.2%	14.2%	2.3%
中学校	授業において、身に付けさせたい資質・能力を育成するための学習課題として活用した	25.0%	53.8%	21.2%	0.0%
	授業において、資質・能力が身に付いているかを確認するための評価問題として活用した	26.9%	61.8%	10.8%	0.5%
	定着が十分でない学習内容について定着を図るための補充問題として活用した	32.5%	54.2%	13.2%	0.0%
	自主的な学習の教材として宿題等に活用した	26.4%	54.7%	16.0%	2.8%
	実力試験や定期試験において評価問題として活用した	25.5%	54.7%	17.9%	1.9%

3 全国学力・学習状況調査問題や鹿児島学習定着度調査の調査問題の活用状況

項目		行っている	どちらかといえば行っている	どちらかといえば行っていない	行っていない
小学校	授業において、身に付けさせたい資質・能力を育成するための学習課題として活用した	33.1%	53.7%	11.5%	1.6%
	授業において、資質・能力が身に付いているかを確認するための評価問題として活用した	28.4%	51.0%	16.9%	3.7%
	定着が十分でない学習内容について定着を図るための補充問題として活用した	43.3%	48.5%	7.2%	1.0%
	自主的な学習の教材として宿題等に活用した	42.8%	42.0%	12.8%	2.5%
中学校	授業において、身に付けさせたい資質・能力を育成するための学習課題として活用した	27.4%	57.5%	15.1%	0.0%
	授業において、資質・能力が身に付いているかを確認するための評価問題として活用した	27.8%	63.7%	8.0%	0.5%
	定着が十分でない学習内容について定着を図るための補充問題として活用した	31.1%	60.4%	8.5%	0.0%
	自主的な学習の教材として宿題等に活用した	28.8%	56.1%	13.2%	1.9%
	実力試験や定期試験において評価問題として活用した	27.8%	54.2%	15.1%	2.8%

#### 4 管理職の学力向上に対する取組

	項 目	行っている	どちらかといえば 行っている	どちらかといえば 行っていない	行っていない
小 学 校	校長が示した学校経営方針（学力向上に関する内容）を全職員が理解し、実践しているかを面談等を通じて確認している	85.4%	14.6%	0.0%	0.0%
	自校の学力の現状（全国学力・学習状況調査の本県の状況や経年変化による学力調査結果の推移等）を全職員に具体的に周知し、理解させている	87.9%	12.1%	0.0%	0.0%
	校長、教頭ともに計画的・意図的に授業参観を行い、指導している	70.8%	28.6%	0.6%	0.0%
中 学 校	校長が示した学校経営方針（学力向上に関する内容）を全職員が理解し、実践しているかを面談等を通じて確認している	81.1%	18.9%	0.0%	0.0%
	自校の学力の現状（全国学力・学習状況調査の本県の状況や経年変化による学力調査結果の推移等）を全職員に具体的に周知し、理解させている	83.5%	15.6%	0.5%	0.5%
	校長、教頭ともに計画的・意図的に授業参観を行い、指導している	64.2%	34.4%	1.4%	0.0%